

古文ドリル：「て」の識別 100問

対象：高校生・大学受験生（共通テスト～難関私大・国公立二次まで） **著作権：**個別指導塾フィット / 中本裕太

はじめに：「て」の正体（5パターン）

古文の「て」は識別問題で頻出。大きく **5種類** あります。

種類	接続/品詞	判別ポイント	例
① 接続助詞「て」	連用形接続	動作の連結「～して」	行き て 、見る
② 完了の助動詞「つ」連用形「て」	連用形接続	「て＋き／けり／たり」	行き て けり
③ 格助詞「にて」の一部	体言接続	「AにてB」	京 にて 生まる
④ 接続助詞「して」の一部	連用形	「～くして」「～にして」	心安く して
⑤ 形容詞・形容動詞連用形語尾の「て」（「く＋て」等）	形容詞	「～くて／～にて」	高く て 広し

識別の鉄則

1. **直前の語の活用形と品詞** を見る
2. 動詞の連用形＋「て」 → 接続助詞 or 完了「つ」連用形
3. 体言＋「にて」 → 格助詞「にて」
4. 形容詞・形容動詞連用形＋「て」 → 形容詞・形容動詞語尾
5. **下接語** を見る
6. 「て＋き／けり／たり」 → 完了「つ」連用形（過去・存続と結合）
7. 「て＋動詞」 → 接続助詞
8. **完了「つ」連用形「て」** と **接続助詞「て」** の見分け
9. 後ろに過去・存続の助動詞 → 完了「つ」連用形
10. 後ろに別の動作・状態 → 接続助詞
11. **格助詞「にて」** は場所・時間・手段を示す（～で／～によって）

🎯 解き方のコツ（時短テクニック）

「識別の鉄則」は文法的に正しい順序。

こちらは **試験本番で3秒で答えを出す** ための実戦テクニックです。

コツ① 「て」の後ろを最初に見る

「て」が出てきたら **直後の語** に視線を飛ばす。 - 後ろが **き／けり／たり／ぬ** → 完了「つ」連用形「て」（例：行きてけり／知りてたり） - 後ろが **動詞・別の動作** → 接続助詞「て」（例：行きて見る／聞きて笑ふ）

「て＋過去・存続系」なら完了、「て＋次の動作」なら接続。

コツ② 「にて」と来たら格助詞のニオイ

「にて」のかたちは要注意。 - **体言＋にて** → 格助詞「にて」（場所・時間・手段）（例：京**にて**生まる／笛**にて**奏す） - 連用形＋にて → 「に」（連用形語尾）＋「て」（接続助詞）→ 形容動詞や助動詞「ぬ」の一部の可能性

直前が名詞なら迷わず格助詞「にて」。

コツ③ 「～くて／～にて」は形容詞・形容動詞の語尾

- ・ 形容詞連用形「～く」＋「て」（高く**て**広し）
- ・ 形容動詞連用形「～に」＋「て」（静か**にて**清し）

「く」「に」の後ろに「て」が来ているなら、それは独立した識別対象ではなく、**形容詞・形容動詞の連用形＋接続助詞** の合体形。

コツ④ 「して」は2つに分かれる

- ・ 連用形＋して → 接続助詞「して」（～して）
- ・ 体言＋して → 格助詞「して」（～とともに／～の手段で）

「して」を見たら **直前** を確認。動詞連用形なら接続、名詞なら格助詞。

試験本番でのチェック順序

1. 「て」の **直後** を見る（き／けり／たり／ぬが来っていないか）
 2. 直後が過去・完了系 → 完了「つ」連用形で確定
 3. 「にて」になっていて直前が体言 → 格助詞「にて」で確定
 4. 「くて／にて」のかたち → 形容詞・形容動詞の連用形＋接続助詞
- この順番で **3秒** で答えが出ます。

よくある引っかけ

- ・「て+けり／たり」を接続助詞と勘違いする（実は完了「つ」連用形）
- ・「にて」の前が連用形か体言かを誤判定（格助詞か別物かが決まる分岐点）
- ・「して」を全部接続助詞と決めつける（「彼**して**告げよ」のような格助詞用法あり）

採点表

- ・ 基礎（Q1～Q20）： /20
- ・ 標準（Q21～Q50）： /30
- ・ 応用（Q51～Q80）： /30
- ・ 入試レベル（Q81～Q100）： /20
- ・ 合計： /100

【第1部】基礎編（Q1～Q20）

5パターンを識別する基本問題。

Q1. 次の傍線部「て」を識別せよ。

京に行き**て**、人に会ふ。

Q2. 次の傍線部「て」を識別せよ。

物書き**て**けり。

Q3. 次の傍線部「て」を識別せよ。

京**にて**生まる。

Q4. 次の傍線部「て」を識別せよ。

高く**て**広し。

Q5. 次の傍線部「て」を識別せよ。

静かにし**て**眠る。

Q6. 次の傍線部「て」を識別せよ。

出で**て**行く。

Q7. 次の傍線部「て」を識別せよ。

月見**て**けり。

Q8. 次の傍線部「て」を識別せよ。

道に**て**人に出会ふ。

Q9. 次の傍線部「にして」を識別せよ。

あはれに**して**しみじみと泣く。

Q10. 次の傍線部「たり」を識別せよ。

寝**たり**。

Q11. 次の傍線部「て」を識別せよ。

思ひて問ふ。

Q12. 次の傍線部「て」を識別せよ。

嵐にて舟壊れぬ。

Q13. 次の傍線部「て」を識別せよ。

月清くて夜更けず。

Q14. 次の傍線部「て」を識別せよ。

道に迷ひてけり。

Q15. 次の傍線部「て」を識別せよ。

庭にて遊ぶ。

Q16. 次の傍線部「て」を識別せよ。

風吹きて寒し。

Q17. 次の傍線部「て」を識別せよ。

春来てけり。

Q18. 次の傍線部「て」を識別せよ。

心して仕うまつる。

Q19. 次の傍線部「て」を識別せよ。

雨降りて川あふる。

Q20. 次の傍線部「て」を識別せよ。

都にて住まひす。

基礎編 / 20

【第2部】標準編（Q21～Q50）

接続助詞と完了の見分け、係り結び・敬語が絡む応用問題。

Q21. 次の傍線部「て」を識別せよ。

旅してけり。

Q22. 次の傍線部「て」を識別せよ。

月隠れて夜暗し。

Q23. 次の傍線部「て」を識別せよ。

帝、大臣を召していはく。

Q24. 次の傍線部「て」を識別せよ。

御使ひに**て**参る。

Q25. 次の傍線部「て」を識別せよ。

春過ぎ**て**夏来たる。

Q26. 次の傍線部「て」を識別せよ。

物食ひ**て**寝ぬ。

Q27. 次の傍線部「たり」を識別せよ。

笛吹き**たり**。

Q28. 次の傍線部「て」を識別せよ。

鶴、首長く**して**美し。

Q29. 次の傍線部「て」を識別せよ。

言ひ**て**やりぬ。

Q30. 次の傍線部「で」を識別せよ。

物言は**で**、ただ涙のみぞ流るる。

Q31. 次の傍線部「て」を識別せよ。

川に**て**舟に乗る。

Q32. 次の傍線部「て」を識別せよ。

静かに歩み**て**こそ、心穏やかなれ。

Q33. 次の傍線部「て」を識別せよ。

御簾より見**て**けり。

Q34. 次の傍線部「て」を識別せよ。

我れ若く**して**学に励む。

Q35. 次の傍線部「て」を識別せよ。

風吹き**て**舟漂ふ。

Q36. 次の傍線部「て」を識別せよ。

道ありて川に**て**渡る。

Q37. 次の傍線部「て」を識別せよ。

知り**て**侍り。

Q38. 次の傍線部「て」を識別せよ。

暗く**て**月もなし。

Q39. 次の傍線部「て」を識別せよ。

御所**にて**召し給ふ。

Q40. 次の傍線部「て」を識別せよ。

一日**にて**二日分働く。

Q41. 次の傍線部「て」を識別せよ。

物のあはれを知り**て**こそ、人ぞあはれなれ。

Q42. 次の傍線部「て」を識別せよ。

笛の音絶え**て**久し。

Q43. 次の傍線部「て」を識別せよ。

唐土**にて**書きたる文。

Q44. 次の傍線部「て」を識別せよ。

いみじく嘆き**て**けり。

Q45. 次の傍線部「たり」を識別せよ。

山深く分け入り**たり**。

Q46. 次の傍線部「にして」を識別せよ。

風静かに**して**波立たず。

Q47. 次の傍線部「て」を識別せよ。

言ひ**て**やる。

Q48. 次の傍線部「て」を識別せよ。

弓に**て**射る。

Q49. 次の傍線部を識別せよ。

月隠れに**けり**。

Q50. 次の傍線部「て」を識別せよ。

御使ひに**て**遣はす。

標準編 / 30

【第3部】応用編（Q51～Q80）

複雑な構文・係り結び・引用を含む応用問題。

Q51. 次の傍線部「て」を識別せよ。

心ある人にあらず**して**、何をか言はむ。

Q52. 次の傍線部「て」を識別せよ。

春過ぎ**て**夏来にけり白妙の衣干すてふ天の香具山。

Q53. 次の傍線部「て」を識別せよ。

嘆き**て**過ぐる夜半に、月かたぶく。

Q54. 次の傍線部「て」を識別せよ。

いみじき宿世の人にして、かかる目に遭ふ。

Q55. 次の傍線部「て」を識別せよ。

寝**て**さめ**て**、また寝つ。

Q56. 次の傍線部「て」を識別せよ。

風吹き**て**雲動く。

Q57. 次の傍線部「て」を識別せよ。

来**て**見れば、誰もなし。

Q58. 次の傍線部「て」を識別せよ。

神に**て**おはす。

Q59. 次の傍線部「て」を識別せよ。

我れ仕うまつり**て**侍り。

Q60. 次の傍線部「て」を識別せよ。

京に**て**生まれ、奈良に**て**育つ。

Q61. 次の傍線部「て」を識別せよ。

物のあはれ知り**て**こそ、と人言ふ。

Q62. 次の傍線部「て」を識別せよ。

言ひ**て**しかば、人みな笑ふ。

Q63. 次の傍線部「て」を識別せよ。

文を書き**て**遣る。

Q64. 次の傍線部「て」を識別せよ。

草に**て**茂る庭。

Q65. 次の傍線部「で」を識別せよ。

言はで思ふ。

Q66. 次の傍線部「て」を識別せよ。

山に分け入りて、心細し。

Q67. 次の傍線部「て」を識別せよ。

月夜清くして、夜更け知らず。

Q68. 次の傍線部「て」を識別せよ。

鳥鳴きて春来たる。

Q69. 次の傍線部「て」を識別せよ。

心慰めかねて、なほ嘆く。

Q70. 次の傍線部「て」を識別せよ。

物思ひて過ぐる。

Q71. 次の傍線部「て」を識別せよ。

御供仕うまつりて侍りき。

Q72. 次の傍線部「て」を識別せよ。

風吹き**て**寒けれども、なほ行く。

Q73. 次の傍線部「て」を識別せよ。

道**にて**たちまちにわかれぬ。

Q74. 次の傍線部「て」を識別せよ。

何を思ひ**て**かさは言ふ。

Q75. 次の傍線部「て」を識別せよ。

仏に祈り**て**、心安し。

Q76. 次の傍線部「て」を識別せよ。

京**にて**学びし日。

Q77. 次の傍線部「て」を識別せよ。

心みだれ**て**眠れず。

Q78. 次の傍線部「て」を識別せよ。

名にし負ひ**て**問ふ。

Q79. 次の傍線部「て」を識別せよ。

露置き**て**葉散る。

Q80. 次の傍線部「て」を識別せよ。

春来**て**夏待つ。

応用編 / 30

【第4部】入試レベル (Q81～Q100)

Q81. 次の傍線部「て」を識別せよ。

三日**にて**、なほつき出でぬ。

Q82. 次の傍線部「て」を識別せよ。

中宮、御文書かせたまひ**て**、人にも見せたまふ。

Q83. 次の傍線部「て」を識別せよ。

「いと尊し」と申し**て**伏し拝む。

Q84. 次の傍線部「て」を識別せよ。

都を発ち**て**幾日になりぬらむ。

Q85. 次の傍線部「て」を識別せよ。

名にし負はばいざ言問はむ都鳥わが思ふ人はいりやなしやと、人間ひて、舟人涙にむせぶ。

Q86. 次の傍線部「て」を識別せよ。

春のあけぼの、やうやう白くなりゆく山際、すこしあかりて、紫だちたる雲のほそくたなびきたる。

Q87. 次の傍線部「て」を識別せよ。

もの隔てて聞けば、宮の御方より、御文奉り給ふ。

Q88. 次の傍線部「て」を識別せよ。

月の都の人にして、月を恋ふ。

Q89. 次の傍線部「て」を識別せよ。

山に分け入りて、心ぼそし。

Q90. 次の傍線部「て」を識別せよ。

内裏より召して、参り給ふ。

Q91. 次の傍線部「て」を識別せよ。

御簾少し上げて、花奉らするを、…

Q92. 次の傍線部「て」を識別せよ。

春の野に、若菜摘み**て**遊ぶ人。

Q93. 次の傍線部「て」を識別せよ。

嵐**にて**舟、岸に流れ着く。

Q94. 次の傍線部「て」を識別せよ。

いみじき宿世の人**にして**、かかる目に遭ふ。

Q95. 次の傍線部「で」を識別せよ。

木の葉に埋もるる懸樋のしづくなら**では**、つゆおとなふものなし。

Q96. 次の傍線部「に」を識別せよ。

寝**にける**人ぞ多かりける。

Q97. 次の傍線部「て」を識別せよ。

大納言、御参り**にて**おはす。

Q98. 次の傍線部「て」を識別せよ。

月清く**して**夜長し。

Q99. 次の傍線部「て」を識別せよ。

行く川のながれは絶えず**して**、しかも、もとの水にあらず。

合計 / 100

あとがき

「て」の識別の核心： - **接続助詞「て」** が圧倒的に多い（連用形＋「て」＋動作） - **完了「つ」連用形「て」** は下に「き／けり／たり／つる」など - **格助詞「にて」** は体言＋「にて」、場所・時間・手段・資格 - **「して」** はサ変連用「し」＋接続助詞「て」、または打消「ず」＋「して」「で」（打消接続）と混同しないこと。

著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太